

S.M.C

Shizuoka Medical Communication

講演会

限られた時間で患者の理解を深めるインフォームドコンセント

講師 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター教授 藤崎和彦先生

開催 平成19年11月3日(土)

平成19年11月3日(土)講師に岐阜大学医学部教授 藤崎 和彦先生をおまねきして「限られた時間で患者の理解を深めるインフォームドコンセントとは」と題し保健所主催で講演会を開催いたしました。深刻な病名を伝えられる患者自身のつらい思いを医療者がしっかり受け止めて一緒に共感することの必要性をわかりやすく説明していただきました。昨今の医療現場は多忙のなかで業務を行う毎日ですが、患者が頼りにするのは医療の専門職の心に届く言葉がけだと改めて認識いたしました。多くの医療者が模擬患者を通じてこのよう体験学習を積みかさねていく事が必要と感じました。

(森田みっ子)

静岡市保健所主催のセミナーに、医療面談の模擬患者として参加させていただきました。今回は、『積極的な治療を考えているが、その治療を進めるには、いろいろな問題がある』という現実と直面し、悩む患者の設定です。

薬剤師→ 医師→ 看護師の医療面談を時系列



で行いました。人の模擬患者が一度に3場面の医療面談を続けて演じるのは、当会として初の試みでしたが3場面の面談が

終了するまで、患者としての気持ちが途切れないうちに心掛けました。まず薬剤師との面談では、会話をするうちに「医療者に患者自身の思いを伝え、本人が納得する医療を受けることが大切」ということを改めて感じました。そして医師との場面では、現在の体の状態や考えられる治療、そして治療を進める上で起こりうる問題点などをはっきりとした言葉で説明していただき、「現実を理解する」ことが出来ました。最後に看護師との面談です。医師との面談で、辛い現実を告げられたばかりの患者の気持ちを受け止め、共感の言葉を掛けていただき、心の中が混乱していた患者にとって、味方になってくれる方を見つけたような安心感を得ることが出来ました。今回、



3場面連続で医療面談をさせていただき、抱えている問題に対する患者自身の思いが、相手の表情や言葉がけによって、様々に変化、患者は一人一人それぞれが、いろいろな事情や背景を抱えています。一方通行ではなく医療者と患者、双方向のコミュニケーションをとり良好な関係を築くことは患者が納得のいく医療を受けるために大切なことと思います。(栗田美奈江)

医療コミュニケーション勉強会に参加して

三島カウンセリング研究会勉強に参加して 平成19年7月7日（土）

三島市で、三島カウンセリング研究会（代表、志村肇氏）の方々とは医療コミュニケーションの勉強をご一緒しました。模擬患者として栗田さん（写真上）にお願いし、「注射がとても苦手で死ぬほど嫌い」な患者さんの役を演じてもらいました。サポートを滝浪さん（写真下）にお願いし袴田（写真中）がファシリテータ役でした。



三島の研究会でカウンセリングを勉強中の看護師さんが、栗田さん演じる患者と医療面談をする設定でした。日ごろのコミュニケーション練習の成果を充分見せて頂きました。



考にすべきコミュニケーション技術を持っておられました。私たち3名には、とても勉強になったと思います。

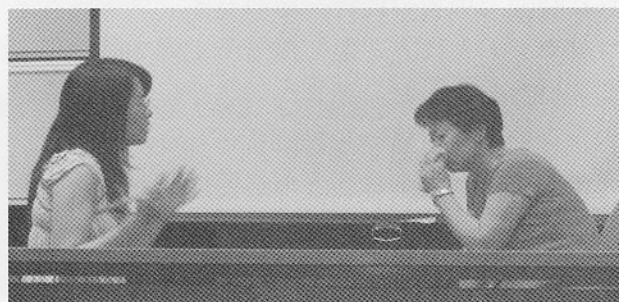
（袴田 康弘）



～京都緩和コミュニケーション研究会～ 平成19年8月4日

盛夏の夜、京都御所近くの病院においてコミュニケーションスキルについての講演とともにSPとして緩和に関わる患者の家族を演じてきました。参加者はいずれも緩和に関わる薬剤師20数名でしたが、それぞれに患者との対応に苦慮されているようでした。患者各々の対応の仕方には違いがあることを具体的に説明し、その後グループごとにディスカッションを行ないました。参加者の多くが今回の講演について大変勉強、参考になりこれからの仕事に役立てていきたい、またこのような研修があれば参加したいとの意見や感想が寄せられました。

（森田みつ子）



菊川病院でのコミュニケーション練習 平成19年10月11日（木）

菊川病院にお邪魔しました。これまでも多数経験している、病院内での医療コミュニケーション練習のお手伝いです。模擬患者として森田さんが膠原病の患者の役を演じました。ステロイド治療が不満で薬を捨てたという設定です。捨てた薬がゴミ箱の中で見つかり、服薬を内緒で中断していたことが判って、看護師や主治医と面談をしようという話でした。

非専門の病気の場面設定されると、ベテラン医療者は、「自分の専門外の分野」だから面談は上手くできないと尻込みされますが、菊川病院の皆さんは、日常の専門分野とは異なる分野であることを感じさせない見事なコミュニケーション法を見せて下さいました。専門的な知識はなにも問題ではなく、患者の気持ちや思いを聴くこと（傾聴）、患者の感情に共感することが、医療コミュニケーションの共通言語であることを改めて納得させられた日でした。

（袴田 康弘）

医療コミュニケーション勉強会に参加して

～「多重業務に対する対応」SPとして参加～ 平成19年9月13日（水）

昨年にひきつづき、県立総合病院に於いて、看護部教育委員会の新人教育にSPとして参加しました。

対象は、看護師として働き始め7ヶ月が経過した新人さんです。夜勤を行うようになり、一度に多くの患者さんのさまざまな訴えや、症状の変化に対応しなければならない時期を迎えています。その為には、患者さんの状態から優先度を判断し、行動することが求められます。

そこで今回、実際にある状況場面を設定し、多重課題を経験することで、業務の優先順位の付け方と対処方法について考え、実践の場に活用できるように企画したものです。

研修目的は、業務の優先順位を考え、多重業務を混乱なく遂行できるようになることです。

6A病棟を、外科病棟大部屋という設定にして、

- ①相田さん 50才 腸炎にて治療中
- ②山田さん 62才 鼠径ヘルニアの手術で、手術室より帰室したばかり
- ③鈴木さん 78才 腹痛の精査入院中の3人のSP役です。

スタートは、①の相田さんが「点滴が終わったので、抜いて下さい。」とナースコールするところから始まります。看護師がお部屋に来て①の相田さんの所へ行こうとすると、②の山田さんが「おトイレに行きたいんだけど、お腹が痛いんです。」と訴える。そこへ③の鈴木さんが「頭が痛くて吐きそうなんです。」と訴える。「さあ、どうしましょうか。」という展開です。

いつもの看護師との一対一の模擬面接と違い、点滴を抜いてもらう、トイレの介助をしてもらう等、言葉のコミュニケーションだけでなく、行動が伴います。ポータブルトイレの介助体験にしても、安心してトイレへ座らせてもらった時、ふらついて、やっと座れた時等、SPとしての体験もいろいろでした。スキニップのコミュニケーションというのでしょうか？SPとしても初めての体験が多く、入院中の病気のリアリティーを、もっと出せるように勉強しなくてはならないと思いました。（扇 みよ子）

学会発表しました

～第7回CRCと臨床試験を考える会議(横浜)～ 平成19年9月15日～16日

臨床試験受託事業協会が、平成19年5月にCRC従事者を対象とした講習会において模擬被験者（健常人ボランティア）を用いたロールプレイに関するアンケート結果を実施しました。

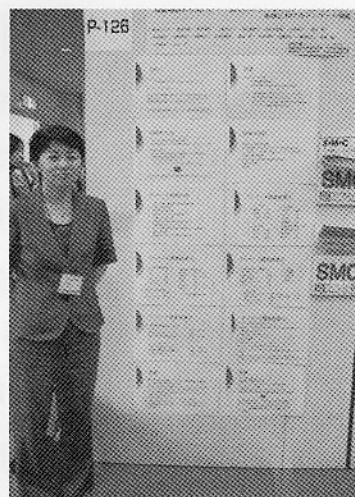
その、結果をまとめ「模擬被験者を用いたFIMでのインフォームドコンセントの実践におけるアンケート調査」としてポスター発表しました。

この学会での発表は、これで2回目です。

参加者の97%が今後の仕事に役立つと回答し、模擬被験者としてのリアリティについては7割近くの人が本物の健常人ボランティアに近いと回答してくれました。

治験の分野での模擬被験者としての参加も今後は益々重要になってくると思われま

（森田みつ子）



語句の説明

SP : 模擬患者 (Simulated Patient)

CRC : 臨床研究コーディネーター
(Clinical Research Coordinator)
臨床試験の調整役

FIM : 初めて人で行なわれる臨床試験
(First In Man)

平成19年度 SMCの活動

月 日	活 動 内 容
平成19年 4月22日	平成19年度総会
4月26日	病院・薬局実務実習導入講義への講師・SP派遣（静岡県立大学）
5月26日	新人看護職員待遇研修へのSP派遣（富士宮市立病院）
5月26日	臨試協中級実務者講習会への講師・SP派遣（東京）
6月30日	新人看護職員待遇研修へのSP派遣（富士宮市立病院）
7月7日	カウンセリング研究会公開講座への講師・SP派遣（三島）
7月9日	看護職員研修（浜松医科大学付属病院）
8月4日	京都緩和医療コミュニケーション研究会（京都府立医大付属病院）
9月12日	新人看護師研修へのSP派遣（静岡県立総合病院）
9月15・16日	CRCと臨床試験のあり方を考える会議 演題発表及び参加（横浜）
9月22日	OSCEトライアルへのSP派遣（静岡県立大学）
9月29・30日	日本医療薬学会 演題発表及び参加（前橋）
10月10日	CRC特論へのSP派遣（静岡県立大学）
10月11日	病院職員のコミュニケーション研修への講師・SP派遣（菊川市立病院）
11月3日	藤崎先生講演会（中央福祉センター）
11月4日	SMC研修会（中央福祉センター）
11月8日	看護教員養成研修会へのSP派遣（看護協会）
11月9日	臨床研究審査を考える会（産学交流センター）
12月18日	CRCのコミュニケーション研修会へのSP派遣（浜松医大病院治験管理センター）
平成20年 1月12・13日	第27回医学教育セミナーへの参加（名城大学）
1月26日	新人看護職員待遇研修へのSP派遣（富士宮市立病院）
2月9日	新人看護職員待遇研修へのSP派遣（富士宮市立病院）
2月23日	医療専門職に求められるコミュニケーションスキルへのSP派遣（京都静岡民医連）
3月1日	OSCEへのSP派遣（浜松医科大学）

その他 毎月 定例会開催

この会に関心のある方は下記事務所までご連絡ください

発行 SMC 静岡医療コミュニケーション研究会 代表 森田 みつ子

〒420-0882 静岡市葵区安東 1-22-25 TEL・FAX 054-248-0348

E-mail mrmstk2000@hotmail.com

HP <http://www.smc.jp/>